

【今週の注目疾患】

インフルエンザ

2016年6週の県全体の定点当たり報告数は、5週の44.83から増加し46.39となった。報告数が多い状態が継続しており、注意が必要である。

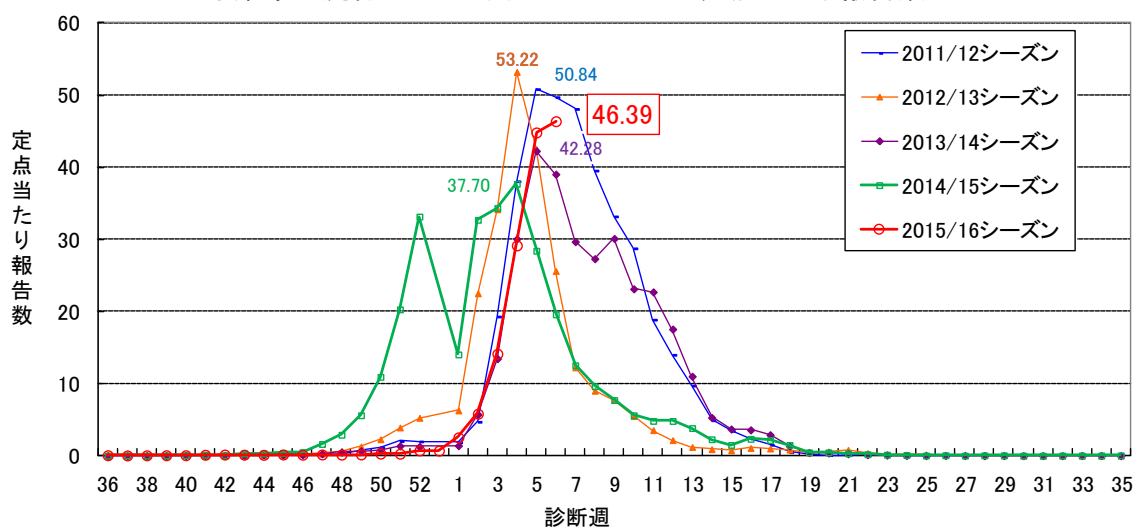
保健所別では、16保健所中11保健所管内で増加し、15保健所管内で国の定める警報基準値(30)を超えており、松戸(59.96)、君津(59.92)、印旛(57.13)、習志野(55.88)、海匝(51.00)、市原(50.73)で多かった。

2015/16シーズン全体の年齢群別報告割合は、5～9歳35.4%、0～4歳18.3%、10～14歳15.7%が多い。

2016年6週の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、9,288例中A型5,958例(64.1%)、B型3,266例(35.2%)、A and B型22例(0.2%)、A or B型42例(0.5%)で、5週と比較するとB型は増加し、A型は減少した。2015/16シーズン合計では、29,328例中A型20,505例(69.9%)、B型8,620例(29.4%)、A and B型64例(0.2%)、A or B型139例(0.5%)であった。

平成27年度 今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)
 URL: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数



2015/16シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告数

